

# 自動車運転者の燃費測定に関する実態調査

## — 二酸化炭素排出量削減への意識啓発に向けて —

石塚 秀雄 (社会人コース)

### 1. はじめに

自動車は現代社会に生きる我々にとって、なくてはならないものの一つである。しかしその前途にはいろいろな問題が投げかけられてきた。自動車の排出ガスは人体に有害であり対策が求められてきた。また近年は、地球温暖化問題が世界的規模で議論され地球温暖化をもたらす温室効果ガスの中でも二酸化炭素の排出削減が求められるようになってきた。

近年技術的には、ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車、ソーラーカー、メタノール自動車などの環境にやさしい自動車の開発や、燃費向上に向けたエンジンの改良などの取り組みが進められている。こうした状況の中、はたして自動車運転者はエコドライブを意識しているのだろうか。

本研究では、こうした日常使用の中で二酸化炭素排出量に直結する自動車の「燃費」について、運転者がどの程度意識しているかに焦点を当てて現状把握を試みた。

### 2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、自動車による二酸化炭素排出量の削減に向けて、運転者の「燃費」に関する意識・行動の実態を調査し、運転者に対する意識啓発の示唆を得ようとするものである。

本研究では、自家用車の運転者を対象として、調査票を用いた対面方式の街頭調査を行った。調査は 2008 年 8 月末から 9 月末にかけて行った。大津市内の比較的人の集まる場所の駐車場付近において、自動車運転者に対して協力を依頼し、合計 200 人から回答を得た。

### 3. 自家用車使用頻度と燃費測定に関連

	いつも測っている	ときどき測っている	めったに測っていない	測っていない	計
ほぼ毎日	32 (26.7)	46 (38.3)	17 (14.2)	25 (20.8)	120 件 (100%)
週に数回	13 (22.0)	13 (22.0)	9 (15.3)	24 (40.7)	59 件 (100%)
月3~4回以下	4 (19.0)	5 (23.8)	3 (14.3)	9 (42.9)	21 件 (100%)

「ほぼ毎日」車を使用している人の 65%が燃費を気にしているのに対し「週に数回」「月に 3~4 回」車を使用している人は 4 割程度と低かった。

### 4. まとめと考察

日常的に自動車を使用している人の 6 割以上 (65%) が実際に燃費を測定していることが明らかとなった。燃費測定の原因を分析したところ、その理由は経済的なことと考えられる。一方ガソリン価格の高騰による走行距離の変化をみると変わらないとの回答が多かった。日常的に自動車を使用している人は、燃費を気にしたり、測ったりしているという行動面では良いのかもしれないが、環境への配慮という視点が浸透しているわけではない。また、環境への配慮意識が浸透したとしても、自動車の使用量が減る可能性も考えにくい。この人達に対しては、燃費測定を推奨することよりも、自動車買い換え時のエコカーの推奨、エコドライブの推奨の方が重要であると考えられる。

週に数回か、それ以下しか自動車を使わない人達については、燃費の測定を推奨し、エコドライブ等の方法によって燃費を向上させることが、自動車からの二酸化炭素排出量の削減につながり、地球温暖化の防止につながるという意識啓発、動機づけが重要であると考えられる。